



S.Suzuki

THE TOKYO JUMP STAKES

第26回 東京ジャンプステークス (J・GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 29,000,000円 12,000,000円 7,300,000円 4,400,000円 2,900,000円
付加賞 490,000円 140,000円 70,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳58^{kg}以上60^{kg}以下、牝馬2^{kg}減、J・GⅠ競走1着馬2^{kg}増、J・GⅡ競走1着馬1^{kg}増

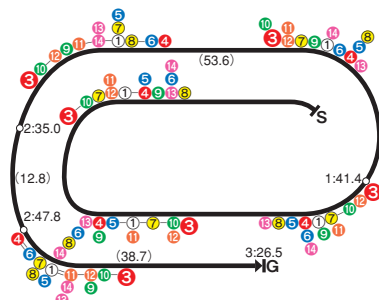
2024.6.22 東京 晴・稍重 芝3110m (混合)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	③	ジュンペロシティ	牡 6	60	高田 潤	3:26.5	1-2-1-1	13.3	468(+2)	3.3②	武 英智(栗東)
2	⑨	ロスコフ	牡 6	60	草野太郎	クビ	6-6-4-3	13.3	502(-2)	16.8⑥	久保田貴士(美浦)
3	⑬	ヴェイルネビュラ	騾 6	50	五十嵐雄祐	5	13-13-6-5	13.3	492(-2)	15.9⑤	大竹正博(美浦)
4	⑩	ブラックボイス	牡 5	60	石神深一	4	3-1-2-2	13.4	520(+2)	4.6③	宮内敬介(美浦)
5	⑪	サクセスエース	牡 6	60	上野 翔	アタマ	4-3-5-5	13.4	496(±0)	34.7⑧	竹内正洋(美浦)
6	⑩	トゥルボ	牡 8	60	中村将之	¾	2-3-3-3	13.4	514(-8)	118.3⑩	小笠倫弘(美浦)
7	⑭	オールザワールド	牡 7	60	森 一馬	2	8-7-6-5	13.4	470(-2)	2.7①	中竹和也(栗東)
8	⑥	ロードトゥフェイム	牡 6	60	坂口智康	5	8-9-12-12	13.5	504(±0)	21.4⑦	尾形和幸(美浦)
9	⑨	ナリノモンターニョ	牡 7	60	金子光希	3	12-10-11-10	13.5	522(+4)	48.3⑩	上原博之(美浦)
10	①	ダイシンクローバー	騾 8	61	黒岩 悠	3½	6-7-8-8	13.5	496(-12)	49.6①	高橋一哉(栗東)
11	⑤	ヴァレッタカズマ	牡 5	60	小野寺祐太	5	11-10-8-8	13.6	506(±0)	45.0⑨	藤野健太(栗東)
12	④	ギガバッケン	騾 9	60	伴 啓太	5	8-10-13-13	13.7	534(-2)	175.8⑭	岩戸孝樹(美浦)
13	⑦	ロウユーヌレイフ	牡 10	60	小牧加矢太	大差	4-5-8-10	13.9	494(-18)	150.8⑬	斎藤崇史(栗東)
14	②	ホッコーメヴィウス	騾 8	60	井上敏樹				468(-6)	10.3④	清水久詞(栗東)

単勝③330円(2^{kg}増) 複勝③150円(2^{kg}増) ⑨340円(5^{kg}増) ⑬360円(6^{kg}増) 枠連③-⑥710円(3^{kg}増)

馬連③-④2,280円(7^{kg}増) ワイド③-⑨840円(8^{kg}増) ③-⑬900円(10^{kg}増) ⑨-⑬2,360円(26^{kg}増)

馬単③-⑨3,310円(10^{kg}増) 3連複③-⑨-⑬8,010円(27^{kg}増) 3連単③-⑨-⑬32,830円(97^{kg}増)



上り1マイル: 1:45.1 上り: 800^{kg} 600^{kg}
51.5 - 38.7

アラカルト

- ・高田潤騎手はオースミューンで制した15年に続く東京ジャンプS3勝目(01年東京オータムジャンプ含む)。JRA重賞はニホンピロバロンで制した16年阪神ジャンプSに続く通算21勝目
- ・武英智調教師はジュンペロシティで制した23年に続く東京ジャンプS2勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算11勝目
- ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算71勝目
- ・6歳馬の勝利は15年オースミューンに続く通算6回目
- ・ホッコーメヴィウスは1周目6号障害(いけ垣)着地時につまずき、騎手が落馬したため競走中止
- ・非当選馬 1頭(ニシノフウジン)

ジューンベロシティ June Velocity

牡 青鹿毛 2018.4.10生
北海道浦河町 ヒダカファーム生産
馬主・吉川潤氏 栗東・武英智厩舎
馬名意味・冠名+速度

デビルズブライドUSA系 F10-e

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サラトガデビューUSA
アドマイヤサブリナ 芦毛 2010	シンポリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	ツインクルヴェール 芦毛 2001	サンデーサイレンスUSA ツインクルブライド

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5 Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

近藤光将専務(ヒダカファーム)

トップを目指せる位置にいます

カラ馬がいたのでひやひやしましたが、勝ってくれて嬉しかったです。こちらにいた頃は大人しくて扱いやすい馬でしたが、レースを使っていくうちに引っかかることが多くなり、馬に我慢することを覚えさせる目的で武調教師が障害練習を取り入れられたそうです。今は障害のトップを目指せる位置にいますので、怪我なく無事にいてくれることを願っています。

T.Miki



道中は絡まれて息を入れられず、直線入口ではカラ馬と交錯しかけた場面もあった。それでも最後まで集中力を切らさずに掴んだ勝利の中身は、非常に濃いものだった。昨年の東京ジャンプS、阪神ジャンプSに続く3つめの重賞タイトルを手中に収め、すっかり充実期を迎えた印象の本馬。念願の「GI制覇をかけ、春の王者イロゴトシに再び戦いを挑む暮れの一大一番が今から楽しみだ。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 詳細はP.6参照

母アドマイヤサブリナ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央30戦3勝(桑名特別)

ジューンベロシティ 本馬(18 牡父ロードカナロア)中央22戦2勝、障害12戦5勝(東京ジャンプS J・G_{II} 2回、阪神ジャンプS J・G_{III}、中山グランドジャンプ J・G_I 2着) 獲得総賞金195,202,000円

ジューンオレンジ(20 牝父ジャスタウェイ)中央16戦4勝(白秋S、下北半島特別、フィリーズレビュー G_{II} 3着) ⑧

ジューンテイク(21 牡父キズナ)中央10戦3勝(京都新聞杯 G_{II}、こうやまき賞、すみれS・L 2着) ⑨
(22 牝父ドレフォンUSA)
※19、23、24(不受胎)

祖母ツインクルヴェール

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央2勝。19年用途変更

トーセンヴェール(09 牝父クロフネUSA)中央0勝、地方1勝、**トーセンガールネット**(東京プリンセス賞、桜花賞・浦和、ニューイヤーC、関東オークスⅡ 3着、NAR 3歳最優秀牝馬)、カイル(東京ダービー、金盃)の母
アドマイヤサブリナ(10 前出)
エアカミゼ(11 牡父キングカメハメハ)中央4勝(吹田特別)、障害0勝
アドマイヤビクター(15 牝父ラーシップ)中央4勝(竹田城S)

曾祖母ツインクルブライド

北海道早来町 社台ファーム生産 中央2勝(桜花賞 G_I 2着、ポートアイランドS_P 3着)、11年死亡

フェリシタル(97 牡父トニービンIRE)中央6勝(比叡S、月山特別、三木特別、大津特別、万葉S_P 2着、京成杯 G_{III} 3着、ドンカスターS_P 3着) ツインクルヴェール(01 前出)

ペールギョウト(02 牝父サンデーサイレンスUSA)中央5勝(デリー杯2歳S G_{II}、シンザン記念 G_{III}、高松宮記念 G_I 2着、京阪杯 G_{III} 2着、東京スポーツ杯2歳S G_{III} 2着、朝日杯フューチュリティS G_I 3着)、種牡馬
ビンチェロ(04 牝父ダンスインザダーク)中央3勝(白百合S_P 3着)
マドレボニータ(05 牝父ジャングルポケット)不出走、**ミッキースワロー**(日経賞 G_{III}、セントライト記念 G_{II}、七夕賞 G_{III}、種牡馬)の母
ツインクルソード(11 牝父デュランダル)中央5勝(豊明S、北國新聞杯、クロッカスS_P 3着)、地方2勝

数々の「試練」を乗り越え連覇達成

夏競馬の足音が近づくなか、6月の東京開催の最終週に組まれた東京ジャンプSには昨年の覇者、ジューンベロシティが参戦。前走の中山グランドジャンプでも2着に食い込んだ実力馬と、いずれも3連勝の勢いに乗って初挑戦の重賞へ駒を進めてきたオールザワールド、ブラックボイスが拮抗した支持を集め、「三つ巴」の図式が描かれた。壁にも跳ね返された格好で、4着に敗れた新星2頭に対し、ジューンベロシティはさすがの貫録をアピール。数々の「試練」を乗り越えて勝利を掴み、レース史上初の連覇を達成した。

2021、22年の2着馬で重賞3勝の実績を持つホッコーメヴィウスがス

タート後、2つめのいけ垣障害で落馬し、競走を中止。その後につけるレースプランを描いていたジューンベロシティの高田潤騎手は押し出されるように先手を奪ったものの、スタンド前の連続障害でカラ馬に絡まれ、厳しい運びを余儀なくされる。ブラックボイスはこれを見ながら直後の3番手を追走。オールザワールドは馬群の後方で末脚を温存した。

2周目の向正面に入るとブラックボイスが外から進出し、いったんは少し前に出る。しかし譲らずに主導権を奪い返した高田騎手は4コーナーからスパート。突き放されたブラックボイスにかわってロスコフが外から強襲し、直線の最終障害を飛越後は2頭の一騎打ちに。長い追い比べをジューンベロシティが制したゴール後、直線の斜行について審議が行われたが、着順の変更には至らず、レースは到達順位の違いに確定した。